

南極氷床辺縁部のアイス・ライズとアイス・ランブル：分布と特徴、氷床と棚氷の動力学に与える影響、気候と氷床の変動復元に果たす役割

Antarctic ice rises and rumples: Their properties and significance for ice-sheet dynamics and evolution

\*松岡 健一<sup>1</sup>

\*Kenichi Matsuoka<sup>1</sup>

1.ノルウェー極地研究所

1.Norwegian Polar Institute

棚氷に囲まれ局地的に設置している地域（アイス・ライズまたはアイス・ランブルと呼ぶ）は、南極氷床からの氷の流出、すなわち海水準への寄与を抑制する大きな役割を果たしている。本発表では、昨年未に出版されたレビュー論文（Matsuoka and 19 others, 2015, Earth-Science Reviews）のなかから、アイス・ライズとアイス・ランブルの分布と特徴、氷床と棚氷の動力学に与える影響、気候と氷床の変動復元に果たす役割について概要を述べる。添付の図は、本論文で発表したインヴェントリに含まれる、194のアイス・ライズ（青、位置と大きさを示す）と510のアイス・ランブル（赤、位置のみを示す）の分布である。

キーワード：南極氷床、棚氷、アイス・ライズ

Keywords: Antarctic Ice Sheet, ice shelf, ice rise

